

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400309	事業の開始年月日	平成25年11月1日
		指定年月日	平成25年11月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア 多摩グループホーム		
所在地	(214-0004)		
	神奈川県川崎市多摩区菅馬場1-25-30		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

近くに川があり、自然や季節を楽しまれる環境に事業所があります。その中で、毎日の外気浴を楽しまれたりご利用者様のペースに合わせた生活を送って頂けるよう心がけています。その方それぞれの認知能力やADLに合わせた自立支援を行い、ご本人様の意思に寄り添いながらケアを支援しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年10月22日	評価機関 評価決定日	令和3年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR南武線の「中野島」駅から徒歩10分の住宅地の3階建て建物の2階と3階にあります。1階には同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所があります。近くには歴史ある寺や散策路が整備された多摩川と三沢川があり四季折々の自然を楽しむことが出来ます。

<優れている点>

事業所の職員で作った「仕事は一人では出来ない。みんなでやるもの！お互いの情報や知識を提供し合い共有しよう！」をモットーにチームワークを大切にされたケアをしています。利用者一人ひとりの起床時間、食事時間、入浴時間などの生活ペースに出来るだけ沿うようにするなど、利用者の意向を尊重したケアを行っています。「拘束・虐待防止チェックリスト」を用いた研修を年2回実施し、職員一人ひとりのケアが利用者本位のケアとなっているか振り返りを行っています。モニターカメラを設置し、適切なケアとなるようにすると共に、事故発生時の状況把握に役立てられるようにしています。

<工夫点>

夜勤、遅番、早番担当者の業務内容について洗い出し、業務フロー、重複業務の整理、役割分担の見直しを行い、それぞれの業務の明確化を図りました。これにより担当職員による業務のばらつきを無くすると共に、ルーチン業務を軽減し利用者へのケア時間を増やすことを行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア 多摩グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	見やすい場所に法人の理念を掲示し、職員間で共有できるよう努めている。	事業所の職員で作成した「仕事は一人では出来ない。みんなでやるもの！お互いの情報や知識を提供し合い共有しよう！」をモットーにチームワークを大切にしたケアをしています。管理者は、話しやすく風通しの良い職場づくりに力を入れています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ拡大により対外的な活動は今年度も出来ていない。その中で継続している移動パン屋での買い物や、事業所内での季節の行事を行っている。	新型コロナウイルス禍で参加する行事は無い状況です。事業所内に籠らずに積極的に散歩の外出支援を行っています。近くの野菜や梨などの無人販売所で会話をしたり、散歩の途中で会う人や子供たちと挨拶を交わす交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	対外的な活動はできていないが、入居や見学など相談や問い合わせがあった際は地域にあるサービスや地域包括への橋渡しを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナ拡大により今年度は、現状開催を中止している。	利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、サービス計画作成担当者、法人本部職員がメンバーです。行事や地域活動への参加状況、事故とヒヤリハット状況を報告しています。新型コロナウイルス感染防止のため開催を取り止めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告等随時報告を行っている。	地域包括支援センターとは、運営推進会議や利用者入居で連絡を密に取っています。生活保護利用者については、多摩区保護課職員が訪問し実情を把握しています。利用者の成年後見制度利用についてアドバイスを受けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については、安全面の確保のため行っている。身体拘束廃止委員会や拠点研修にて理解を深めている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月ごとに開催し、研修会を年2回行っています。研修については出席できなかった職員も含めて全員がA4版1ページのレポートを提出して当事者意識を高めています。リスクマネジメントとして、法人本部が職員に対して年2回個人面談を行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束や虐待についての理解を深めるため、拠点研修や日頃からのケアに注意を払っている。	「虐待及び拘束自己点検シート」を活用した研修を年2回実施し振り返りを行っています。モニターカメラ設置により適切なケアとなるようにすると共に、事故発生時の状況把握に役立てられるようにしています。職員からの相談窓口を法人本部に設けています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度は活用しており、身寄りのない方についても行政と調整しながら後見人をつけて頂いたり、安心センターの利用が出来るよう情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約、改定等の際、時間を設け家族等に確認しながら不安や、疑問点などを尋ね理解を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体として利用者（ご家族）アンケートを行って、出された意見に対してできるだけの対応を行っています。	手紙で利用者の様子を毎月家族へ伝えたり、入口に勤務職員名を掲示するなど家族との関係づくりをしています。法人として年1回アンケートにより意見、要望を聞いています。新型コロナウイルス禍での面会要望に対してLINEを活用して対応をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の情報を申し送りノートを活用し、スタッフの意見や提案などは毎月のミーティングで話し合いの場を設けている。	管理者は風通しの良い職場づくりに力を入れ、職員からの意見・提案を聞いています。夜勤、早番、遅番業務の見直しにより業務を明確化して、業務のばらつきを無くすと共に、ルーチン業務を軽減し利用者へのケア時間を増やすよう取り組んでいます。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人全体として、キャリアパス制度や社内資格の取得推奨を行っている。	法人として「ケアテクニカルマイスター制度」という加給のある社内資格制度を設けています。eラーニングにより好きな時間に学習できる環境を整えています。向上心を持って公的資格取得にチャレンジする職員も居ます。この一年離職者は有りません。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社後は入社研修を受けてもらい、その後は社内研修などに参加し資格などを取得できるよう支援している。	法的な研修とケアスキルの研修について年間計画を作成して行っています。研修実施にあたっては、全職員がレポートを提出し、当事者意識を高めると共に、理解度を把握しています。派遣社員から正社員へステップアップした職員もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナ拡大により、他拠点の管理者との対外的な活動は出来ていない。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始時は、状態観察、日々の記録や職員間の情報収集などで本人の状態や希望を把握できるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始する前に、入居の経緯や入居後の希望を伺いケアプランに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じて、グループホームだけでなく他施設のサービスについて話をし、検討いただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭きや洗濯物畳など、利用者が自ら出来る部分はお願ひし感謝の言葉を忘れずに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月普段の様子などを書いた手紙を家族に報告し、それに対しての家族の考えや希望などを伺うよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族以外の面会も受け入れる様になっているが、今年度はコロナ拡大により面会は制限している。	事業所内で閉じた生活とならないように散歩を積極的に行い、慣れ親しんだ地域の景色を継続し楽しめるようにしています。馴染み店の買い物も支援しています。知人などへの手紙を書くことや、電話をかけることの支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ利用者同士の会話が成り立つように、フロア内の席順を工夫したり、職員が介入し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、気軽に相談できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアや会話の中からできるだけ情報を引き出し、本人の希望や意向の把握に努めている。	職員が利用者の一人ひとりの特徴や生活リズムを把握しています。申し送りシートにより、利用者の思いや状態について情報を共有しています。各フロアごとにケアマネジャーが居ます。日頃より職員全体で利用者の思いと意向を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	過去の生活歴や既往歴など個人の情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の本人の状態を観察し、職員間で現状を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ケースカンファレンスをフロアごとに行い、プラン更新や目標期間を迎える際にはモニタリングを行っている。	毎月、職員全体でカンファレンスを行っています。ケアプランの更新や長期目標、短期目標を迎える時期にはモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画をチーム全体で検討し、計画作成者がまとめ上げます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	サービス提供記録簿や申し送りノートなどを活用し、利用者の変化や気づきを職員間で共有しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来る限りは希望に添えるように、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎週、移動パン屋での買い物や、欲しい物をリストアップしてもらいお買い物代行し楽しみを提供しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけの医師、看護師と日々情報を共有をし、家族への病状説明なども行っています。	月二回、往診医が来ています。週一回、看護師が健康チェックを実施しています。急変時には24時間対応して貰えます。訪問歯科は月二回、ないし定期検診を実施しています。かかりつけ医と事業所とで情報を共有し、家族への病状説明を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の関わりの中で情報を共有し、必要に応じて医師に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを活用し、退院時には病院からの情報交換を行い相談に務めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所、かかりつけ医、看護師、家族で本人の状態を共有し重度化、終末期のケア方針を決め取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針について説明し、本人及び家族に承諾を得ています。重度化した場合は、医師の判断を踏まえ再度、方針を確認しチーム全体でケアを行います。看取りの経験があり、医師、看護師、職員が連携した支援が来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故のフローチャートを作成し、共有できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	研修や年2回の避難訓練を実施しています。地域との連携は今後、検討予定。	年2回の避難訓練は、消防署との協力で利用者も参加し行っています。特に水害については事業所の近隣に河川があり浸水地域の指定になっています。水害時には事業所建物の三階へ避難することになっています。備蓄品も定期的に賞味期限などを点検しています。	水害に備えた実践的な避難計画の作成およびその避難訓練の実施が期待されます。備蓄品の種類と量の充実、および保管場所の見直しが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の理解や接遇などの研修を通して、適切な声かけや対応ができるように努めている。	研修や日頃のコミュニケーションを通して、認知症について理解を深め、職員が一人ひとりに寄り添った声かけやケアを心がけています。特に、排泄や入浴はプライバシーの確保を大事にし、利用者の気持ちを最大限尊重できるように気を付けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しやすい雰囲気づくりや、その方の判断能力に応じて自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の希望や生活ペースに出来るだけ合わせ、職員側の動き方にも適宜対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や入浴時など選べる時は、季節に合った洋服を選んでもらい身だしなみを支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理は職員で行い、食後の下膳ができる方にはして頂き、食器拭きやランチョンマット拭きを手伝って頂いている。	業者による調理済み食材を湯煎で提供しています。ご飯と味噌汁は職員が調理しています。栄養価やカロリー計算もしています。食事を楽しむことが出来るよう「パタカラ」口腔体操を食前に行っています。利用者は、出来る人は下膳や食器拭きを手伝っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状態に合わせて見守り、声かけ、介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、状態に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科からの指導、助言を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々の排泄記録を取り、個別に合わせた排泄支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な声かけやトイレ誘導を行っています。排泄が自立で行えるよう、自分で出来るところまでは自分で行って貰っています。排泄ケアでは声かけ時から、利用者の人格を尊重するように心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や食事の管理、必要に応じて医師と相談し排便の管理を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には曜日はこちらで決めている。ただ、本人の希望や要望があれば適宜、変更や調整を行っている。	基本的に週2回ですが、利用者の希望や要望を調整し、入浴の支援をしています。入浴時は1対1なので、利用者の思いや気持ちを把握するように努めています。利用者の身体状況により足浴やシャワー浴を行っています。季節に合わせて柚子湯も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や身体の状態に合わせ、声かけ、誘導等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬について変更があった際は、往診医、看護師、薬剤師より説明を頂き職員間で共有できるよう、申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションの実施や、生活の手伝いなど役割を支援し、気分転換に外気浴を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ拡大により外出は制限している。事業所の付近で外気浴を楽しんで頂いている。	コロナ禍により遠出の外出は行けませんが、近所の散歩などの支援を積極的に行っています。2～3人ずつ近くの小川まで散歩に行っています。事業所玄関前の広い駐車場で外気浴を楽しんでいます。買い物や外出は家族に協力してもらい、実現しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、事業所で管理している。また、無いと不安な方には家族の了承を頂き少額持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があった場合、家族の了承を頂き対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的な清掃、温度管理を行っている。季節に合わせ、飾り付けをし居心地の良い環境作りに努めている。	共用空間は定期的に温度や湿度管理、清掃を行っています。リビングでは季節を感じる飾り付けをして楽しんでいます。職員と利用者の共同制作の作品も置き、「住まい」としての居心地の良さに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内の席順や、利用者同士の関係性等を考慮し居場所の工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔から使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂くよう家族に伝えている。	入居前からの馴染みの家具や思い出の写真、好みのものを自由に持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫しています。居室担当が日常生活用品などを揃え、季節ごとの衣服を入れ替えをしています。利用者と家族が相談しやすいように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	最低限の動線の確保、分かりやすい標識を使い、自立した生活が送れるよう努めている。		

事業所名	ヒューマンライフケア 多摩グループホーム
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	見やすい場所に法人の理念を掲示し、職員間で共有できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ拡大により対外的な活動は今年度も出来ていない。その中で継続している移動パン屋での買い物や、事業所内での季節の行事を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	対外的な活動はできていないが、入居や見学など相談や問い合わせがあった際は地域にあるサービスや地域包括への橋渡しを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナ拡大により今年度は、現状開催を中止している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故報告等随時報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については、安全面の確保のため行っている。身体拘束廃止委員会や拠点研修にて理解を深めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束や虐待についての理解を深めるため、拠点研修や日頃からのケアに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度は活用しており、身寄りのない方についても行政と調整しながら後見人をつけて頂いたり、安心センターの利用が出来るよう情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約、改定等の際、時間を設け家族等に確認しながら不安や、疑問点などを尋ね理解を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体として利用者（ご家族）アンケートを行って、出された意見に対してできるだけ対応を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の情報を申し送りノートを活用し、スタッフの意見や提案などは毎月のミーティングで話し合いの場を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人全体として、キャリアパス制度や社内資格の取得推奨を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社後は入社研修を受けてもらい、その後は社内研修などに参加し資格などを取得できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナ拡大により、他拠点の管理者との対外的な活動は出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に楽しく本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始時は、状態観察、日々の記録や職員間の情報収集などで本人の状態や希望を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始する前に、入居の経緯や入居後の希望を伺いケアプランに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じて、グループホームだけでなく他施設のサービスについて話をし、検討いただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭きや洗濯物畳など、利用者が自ら出来る部分はお願ひし感謝の言葉を忘れずに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月普段の様子などを書いた手紙を家族に報告し、それに対しての家族の考えや希望などを伺うよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族以外の面会も受け入れる様になっているが、今年度はコロナ拡大により面会は制限している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ利用者同士の会話が成り立つように、フロア内の席順を工夫したり、職員が介入し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、気軽に相談できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアや会話の中からできるだけ情報を引き出し、本人の希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	過去の生活歴や既往歴など個人の情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の本人の状態を観察し、職員間で現状を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ケースカンファレンスをフロアごとに行い、プラン更新や目標期間を迎える際にはモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	サービス提供記録簿や申し送りノートなどを活用し、利用者の変化や気づきを職員間で共有しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来る限りは希望に添えるように、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎週、移動バン屋での買い物や、欲しい物をリストアップしてもらいお買い物を代行し楽しさを提供しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけの医師、看護師と日々情報を共有をし、家族への病状説明なども行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の関わりの中で情報を共有し、必要に応じて医師に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを活用し、退院時には病院からの情報交換を行い相談に務めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所、かかりつけ医、看護師、家族で本人の状態を共有し重度化、終末期のケア方針を決め取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故のフローチャートを作成し、共有できるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	研修や年2回の避難訓練を実施しています。地域との連携は今後、検討予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の理解や接遇などの研修を通し、適切な声かけや対応ができるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しやすい雰囲気づくりや、その方の判断能力に応じて自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の希望や生活ペースに出来るだけ合わせ、職員側の動き方にも適宜対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や入浴時など選べる時は、季節に合った洋服を選んでもらい身だしなみを支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理は職員で行い、食後の下膳ができる方にはして頂き、食器拭きやランチョンマット拭きを手伝って頂いてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状態に合わせて見守り、声かけ、介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、状態に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科からの指導、助言を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々の排泄記録を取り、個別に合わせた排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や食事の管理、必要に応じて医師と相談し排便の管理を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には曜日はこちらで決めている。ただ、本人の希望や要望があれば適宜、変更や調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や身体の状態に合わせ、声かけ、誘導等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬について変更があった際は、往診医、看護師、薬剤師より説明を頂き職員間で共有できるよう、申し送りノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションの実施や、生活の手伝いなど役割を支援し、気分転換に外気浴を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ拡大により外出は制限している。事業所の付近で外気浴を楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、事業所で管理している。また、無いと不安な方には家族の了承を頂き少額持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があった場合、家族の了承を頂き対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的な清掃、温度管理を行っている。季節に合わせ、飾り付けをし居心地の良い環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内の席順や、利用者同士の関係性等を考慮し居場所の工夫をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔から使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂くよう家族に伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	最低限の動線の確保、分かりやすい標識を使い、自立した生活が送れるよう努めている。		

2021年度

事業所名 ヒューマンライフケア多摩グループホーム

作成日： 2021年 12月 10日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水害について、実践的な避難訓練や備蓄品の保管や整備について	地域と連携し、水害を想定とした避難訓練の実施。備蓄品の保管場所の見直し。	地域活動の参加や、拠点の行事などに地域の方々に声掛けをし、連携を図る。備蓄品のリストを見直し保管場所や小規模との合同避難訓練の実施。	9ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月